

イコモスが現地調査

中尊寺、毛越寺など9資産を視察



【1日目】中尊寺経蔵の調査で山田貫首（左から2人目）らの説明を受けるイコモス調査員のウィーラシン八さん（同3人目）

来年7月の世界遺産登録を目指す「平泉―浄土思想を基調とする文化的景観」に対する、ユネスコの諮問機関・イコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査が8月27日に始まり、28日、29日の3日間、イコモスから派遣された、スリランカのジャガス・ウィーラシン八さんが、29日まで3日間の日程で中尊寺や毛越寺など全9資産を調査しました。今月号では3日間の調査概要を速報でお知らせします。

調査員略歴

名前…ジャガス・ウィーラシン八さん（52）
所属…スリランカケラニヤ大学考古学大学院考古学・遺跡保存上級講師、スリランカイコモス国内委員会委員
職歴…スリランカ文化省中央文化基金壁画保存・考古学担当副長、スリランカモラトウワ大学建築学部記念物・遺跡建造物分野保存修士課程プログラム壁画保存・記録客員講師
学位…1981年スリランカケラニヤ大学美術研究美術学士（優等学位）、1990年米国ワシントンDCアメリカン大学美術学修士

イコモスによる現地調査の日程

◎実施時期…8月27日～29日

◎調査スケジュール

1日目	2日目	3日目
▷中尊寺 ▷長者ヶ原廃寺跡 ▷ミーティング	▷骨寺村荘園遺跡 ▷達谷窟 ▷柳之御所遺跡 ▷白鳥館遺跡 ▷ミーティング	▷無量光院跡 ▷金鶏山 ▷毛越寺 ▷ミーティング



【2日目】柳之御所遺跡の復元園池東側での調査



【3日目】龍頭鷗首船に乗って大泉が池を視察した

調査最終日には、無量光院跡と金鶏山、毛越寺をそれぞれ視察しました。毛越寺でウィーラシン八さんは、藤里明久執事長や町教委職員らの説明を受けながら、常行堂、遣水、円隆寺跡などを調査。龍頭鷗首船に乗って大泉が池の視察も行いました。境内の調査後は、毛越寺線の整備状況の確認、旧観自在王院庭園の視察などを合わせてを行い、3日間わたる現地調査の日程を終えました。

8月29日

3日目

8月27日
1日目
調査初日、ウィーラシン八さんは、駒形峰の展望台から町の中心部を望んだ後、中尊寺と奥州市衣川区の長者ヶ原廃寺跡を訪れました。中尊寺には午前9時半に到着

山田俊和貫首や町教委職員らの説明を受けながら、本堂や金色堂、経蔵などをじっくりと調査しました。調査には文化庁や外務省、県教委、一関市、奥州市、平泉町の関係者ら約30人が同行し、ウィーラシン八さんの調査を見守りました。

8月28日

2日目

2日目は午前の一関市の一関市立博物館、同市の骨寺村荘園遺跡を訪れ、午後からは達谷窟、柳之御所遺跡、奥州市の白鳥館遺跡を調査しました。このうち柳之御所遺跡では、

町教委職員が資産の概要や歴史などについて資料を示して説明。復元整備を目指す園池地点では、主要遺構と復元整備計画、遺跡保護に向けたパイプ設計の変更点などを伝えました。ウィーラシン八さんは、資料と現地を照らし合わせながら、説明に耳を傾けていました。